

日	月	火	水	木	金	土
					1 10:00納骨堂参拝 13:30 グランドゴルフ	
2 7:00日曜礼拝 AM農園作業	3	4 13:30 踊り教室	5	6	7	8 築地成道会布教大会 (れんげ会振替)
9 7:00日曜礼拝 AM農園作業	10	11	12 12:30 ヨーガ教室	13	14 14~16日 築地常例布教 (若住職出仕)	15 13:30 グランドゴルフ
16 7:00日曜礼拝 AM農園作業	17	18 13:30 踊り教室	19 【講師】 天真寺法中	20 11:00写経会 12:00抹茶の会 13:30法話会 終了後忘年会	21 9:00 ボラン寺 (寺報発送)	22 15:00壮年会
23 天皇誕生日 7:00日曜礼拝 15:00雅楽教室	24 振替休日	25	26 12:30 ヨーガ教室	27	28	29
30 7:00日曜礼拝 AM農園作業	31	[来月] 1月1日(火) 「元旦会」 午後2時 20日(日) 「法話会」 午後1時半				

天ちゃんの一言

12月の築地本願寺の常例布教に若住職・龍哉が出仕します。すべて自由にご聴聞できますので、ぜひお参り下さい！！

- <毎日> 午前7時~の勤行後に5分程度[会場: 本堂]
- <14日> 午前10時~の読経後 午前10時半~11時半 [聞法ホール]
午後12時半~の読経後 午後1時~2時半 [聞法ホール]
午後6時半~の読経後 午後7時~8時 [聞法ホール]
- <15日> 午前10時~の読経後 午前10時半~11時半 [聞法ホール]
午後12時半~の読経後 午後1時~2時半 [聞法ホール]
- <16日> 午前10時~の読経後 午前10時半~11時半 [聞法ホール]
午後12時半~の読経後 午後1時~2時半 [聞法ホール]

阿弥陀様に新年の御挨拶

が たん え
元 旦 会

平成25年1月1日

午後2時より
天真寺本堂にて

どなたでも自由にお参り下さい



今月のふれあい農園【干し柿作り】

浄土真宗 天真寺派

〒270-2251
千葉県松戸市金ヶ作106番地
TEL 047-389-0808
FAX 047-389-0809
www.tenshin.or.jp



月刊 天真
12月号

発行日 2012(平成24)年12月1日
発行者 浄土真宗本願寺派天真寺
第429号

人生が変わる|仏教入門

で月一回夜、五人の僧侶を集めて開かれる「僧侶男子に癒されナイト」は、お勤めの後に僧侶一人を女性三、四人で囲み、東北産の日本酒や精進料理を飲みながら相談事を聞く催しだ。その僧侶の一人である千葉・天真寺「阿彌」の西原龍哉氏(36)は、「二十、三十代の女性が主。上司とうまくいかない、等々仕事の人間関係や付き合い方について悩んでいる男性の姿も、どう向き合っているかわからない」等の恋愛相談、いけないとわかっていてもついに怒ってしまったりした「願望」を、不動産業の傍ら「モダンアート」を営む鳥居友佳氏(33)は、「〇九年に五十一代の母親を突然亡くした際に仏教に触れ、「救われた」と感じたという原体験があった。」「昨年、異業種交流会で平井裕善さん(36)と、山崎浩一(33)と、阿彌とお会いして、仏教ってこんなに楽しいものなんだと再認識した」と(西原氏)。その後、東北を旅先が興った。「以後、不安な気持ちを抱えたままの人は、もしかしたらお坊さんとお話せば心が楽になるのでは?」とあって、平井氏と協力して、「気軽に来てください」の画題のホームページやツイッターで拡散。一人一人の入門料は復興の義捐金とする。すると四月初日には、北方の僧侶の阿彌に押し寄せた約五、六人の女性が廊下まで溢れた。

西原龍哉 36歳

法大在学中に同派僧侶と出逢った。法大在学中に仏教の専門学校の勉強で、法大で出家の寺を建て、道場は農園で暮らすの日常を、とか



松本紹圭 33歳

専業主婦・物販という環境の中で、いろいろな言葉が聞かれました。仏教を信じた今だから理解している言葉は、いろいろではないか。



平井裕善 36歳

両親は仏教とは別派。幼時に実母を亡くして、もともと道に迷い、最後は形勢と相談、大学卒業後、習字に行くような感覚で入門。



木原健 34歳

場内で開かれた言葉イベントへの参加が「縁」。悩みを輸入業者と語る人々の姿に気づき、公務員志望から転身、法大社会学部卒。



「PRESIDENT」(プレジデント社発行) 2012年10月29日号

当初は僧侶側が一方的に話をしていたのだが、自然と今の形に落ち着いてきたという。酒を飲みながらの気楽な場だが、ファンレターや追っかかりが登壇する浮ついた雰囲気は持たない。「いい答え、いい言葉を出そう、まじめよう」としていましたが、だまわ「とっつてるほうがいい」とわかってきた。よく坊さんの話は長いといわれます(西原氏)。大阪がルーツで、育った派の私も、何か聞かれました。回答するように何かを付けています。「とは当の平井氏、若い人にお寺に来て下さい」と言ったら「何しに?」と返されて衝撃を受けた。お会いする僧侶さんには高僧の方が多い。想像もつかぬ質問もいたくこの場合は、私たちがとても大事な修行の場です(阿彌)。もっとも、ある高僧の作像が「昔は女性の門徒・檀家がさんな相談をしてくる」と話していた。「阿彌」というから、実は彼らの試みはもともと行っていたことへの、原点回帰なのだ(平井氏)。「仏教はいつその時代に生きていく人にとって必要なものではない。しかし、従来の言葉では伝わらないことも聞き手と語り手の新しい接点が開発される時期かも」と前出の木原氏が語る通り、こうした若い僧侶たちは、いわば仏教という優れたコンテンツと、一般人との新しいチャンネル役である。

雑誌「PRESIDENT」に若住職が登場しました!

幸福って平等ですか？

一面にご紹介の通り「プレジデント」仏教特集号に、仲間たちと続けている取り組みが紹介されました。仕事帰りの若い人たちにも仏教に触れてもらう機会を作ろうと「僧職男子に癒されナイト」というイベントを月に一度開いています。お坊さんに聞いてみたいこと、話してみたいことがある人なら、誰でも参加できます。

そこでは集まった人達とさまざまな話をします。つい先日、参加の方からこんな質問がありました。「幸福は心次第だと思いますが、それでも聞きたいです。幸福は人類に平等なのではないですか？」うーん…深く難しい質問ですが、私なりに考えてみました。

まず「幸福」と聞いて西洋の詩人・カールブッセの詩の一篇が頭に浮かびました。

山のあなたの空遠く「幸い」住む人のいう
ああ、我人と尋ね行きて涙さしぐみ帰り来ぬ
山のあなたになお遠く「幸い」すむと人はいう



私たちは自分に欠けているもの、不足しているものばかりに目を向けて、心をとられてしまいます。病気になるれば病気に心をとられ、病気が治ればしあわせなのにと感じます。しかし病気が治ればその有難さも忘れ、今度はお金があれば…と考えるのです。それでは一生しあわせにはなれません。カールブッセの詩を読むと、そんな欲深い私の心が見透かされたように感じます。

しかし本当のしあわせは求めて得るものではなく、今私の身に与えられているものに見つけていくものです。私の願いが叶うことがしあわせだと考えている限りは、しあわせは平等ではないかもしれません。しかし、今ある恵みに目を向けて、そこに手を合わせる心が生まれた時には、すべてが尊いご縁であったとしあわせを実感できるのではないのでしょうか。

「幸」という字は、獲得による恵みをあらわします。しかし辞書によると、昔は「仕合わせ」と書いていたとあります。これは人と人が互いに支え合い助け合うこと、さまざまな巡り合わせへの感謝が込められています。

幸福といえば、豊かさ・健康・楽であることが思い浮かびます。全く逆の境遇にある時は不幸と感じてしまいます。しかしその時にしか味わうことができない人生の深みがあります。どんな時間も無駄ではない、尊いのちを生きるんだよという仏様の願いを聞かせていただき、強く人生を歩んでいきたいと思えます。
(若住職・龍哉)

お寺から ご報告

■ ようこそ天真寺へ！

多摩組壮年会の皆様が訪れて下さいました。まずは天ちゃんパークにてウェルカムドリンク、オリジナルコーヒーでお出迎え。その後「ふれあい農園」へ案内するなど、天真寺壮年会の活動を紹介しました。まだ発足したばかりですが、盛んな活動が評価され嬉しく思います。二次会も盛り上がり、大変実りある交流会でした。



■ お寺中ピカピカ★感謝！

おみがきにご協力いただき、ありがとうございました。おかげできれいになった本堂で、無事報恩講がつとまりました。そのご報告は次号にて。



天真寺 天ちゃん募金

「できる人が、できることを」をモットーに続けてきたお寺のボランティア活動、ボラン寺。これまでもカンボジアの子ども支援や、貧困や戦争で苦しむ国々への募金活動などを行ってきました。この度は震災を縁に、助け合いのための「天ちゃん募金」を作りました。皆様のあたたかいお気持ちをお寄せ下さい。

[郵便振替]00270-5-82663
[加入者名]天ちゃん募金



仏様のお話を聞きましょう 今年最後のご法座です

法話会のご案内



【日時】

12月20日(木)

午前11時 写経会 / 12時 抹茶を楽しむ会
午後1時半 定例法話会
終了後 門信徒会忘年会

【講師】

天真寺法中

天真寺所属僧侶による
法話リレー

過去帳持参の方は、尊前にお供えします。年回法要や命日を縁に、ご家族でお参り下さい。

住職の独り言 天真寺ホームページで連載中

「今度一杯やりましょう」「そうですね、そのうち…」。ハッキリ断られるより「そのうちに」と言われた方が良かな。しかし、今の若者は「微妙」(びみょ〜)という言葉を使うという。「びみょ〜」と言われると、ハッキリした否定ではないにせよほぼ否定の意味なのかなあ。広辞苑で調べると、「微妙」(びみょう) 1. 美しいさまや味わいが何ともいえずすぐれているさま。2. 細かい所に複雑な意味や味が含まれていて、何とも言い表しようのないさま。若者は2の意味で「びみょう〜」と使うようだ。仏教用語では「微妙の法」(みみょうのほう)、「微妙快樂」(みみょうけらく)、「微妙香潔」(みみょうこうけつ)等々用いられ、「微妙」を「みみょう」と読む。広辞苑で微妙(みみょう)を調べると1. 何ともいえないほどすぐれていること。2. 仏法とそれを悟る智慧の深遠ですぐれているさま。と書かれていた。同じ漢字なのに読みによって意味が違って来るんですね。何とも微妙な話ですね。



初産式 七五三
めぐみの参拝
おめでとうございます
みんな仏の子！



＜初産式＞
大西ななみちゃん
＜七五三＞
鶴丸大和くん 7歳
高部悠光くん 5歳

詳しくはお問い合わせ下さい



大町 やすらぎパーク

大町やすらぎパーク内
納骨懇志20万円



大町 やすらぎ堂

京都・大谷本願内
納骨懇志30万円



永代合葬墓
京都 あんのん堂